

「さんべボランティアセミナー」

1 趣 旨

- ボランティア活動を始めようとする青年に、ボランティアについての学びの場を提供することで、社会の様々な場面で主体的に活動しようとする姿勢やボランティア精神を育む。
- 先輩ボランティアやボランティアセミナーに参加した仲間とのつながりをつくることで、今後のボランティア活動への意欲を高める。

2 事業の概要

- (1) 期 日 ① 令和2年10月17日(土), 10月18日(日) <日帰り>
② 令和2年10月24日(土), 10月25日(日) <日帰り>
- (2) 会 場 松江市城東公民館
- (3) 対 象 ボランティア活動に興味のある青年(高校生, 大学生, 社会人)
- (4) 参加者 ① 大学生2名 (島根県立大学出雲キャンパス2名)
② 大学生4名 (島根大学4名) ※募集各15名程度
- (5) 講 師 くびき自然学校 佐藤 しのぶ 氏
国立三瓶青少年交流の家職員, 法人ボランティア
- (6) 日程・研修内容
 - ①10/17(土)・②10/24(土)
 - 9:30 ①オープニング(趣旨説明)
 - 9:45 ②「青少年教育施設の現状と運営(1.0h)」
 - 11:00 ③「ボランティア活動の技術(1.5h)」
 - 12:30 昼食
 - 13:30 ④「ボランティア活動の技術(2.5h)」
 - 16:30 ⑤「青少年教育施設におけるボランティア活動(2.0h)」
 - 18:30 終了
 - ①10/18(日)・②10/25(日)
 - 9:30 ⑥「安全管理(救命救急)(3.0h)」
 - 12:30 昼食
 - 13:30 ⑦「青少年教育(1.5h)」⑧「ボランティア活動の意義(1.5h)」
 - 16:30 ⑨クロージング(ふりかえり)
 - 17:00 終了

3 事業の特色

- (1) プログラムデザインと企画のポイント
 - 「国立三瓶青少年交流の家ボランティア育成ビジョン」(国立三瓶青少年交流の家 HP 参照:
<https://sanbe.niye.go.jp/volunteer/>)のうち, 本事業は「育成の入口」にあたる。ボランティア養成共通カリキュラムを実施する上で, 今後, ボランティアとして当交流の家へ継続して参加してもらえるよう, 「参加者同士だけでなく, 先輩ボランティアとのつながりも深めること」「当交流の家でのボランティア活動を理解してもらうこと」を大切にしている。
 - 参加者と先輩ボランティアとのつながりも深めるため, 先輩ボランティアにも運営をサポートしてもらうようにした。

- 今年度は、新型コロナウイルス感染症予防の観点から周辺大学が学生に対し、宿泊を伴う活動を制限していることを踏まえ、実施形式を「宿泊⇒日帰り」に変更すると共に、会場も参加者の多くが居住する、島根県松江市内の公民館に変更した。
- 新型コロナウイルス感染症予防のため、募集定員を例年の50名から15名に変更すると共に、2回に分けて開催とした。
- 法人ボランティアへのニーズ調査では「コミュニケーション能力の向上」を求める声が多いため、コミュニケーション能力を養うことを目指した活動を取り入れた。

(2) 運営のポイント

- 参加者同士や先輩ボランティアとの交流を深めるため、先輩ボランティアは運営補助主体ではなく、参加者と共に講義・演習に参加することに専念した。
- 「青少年教育施設におけるボランティア活動」では、先輩ボランティアから当交流の家の事業説明等を行ってもらうことに加え、過去の体験から得た学び・気づきを、参加者に直接語ってもらった。
- 新型コロナウイルス感染症予防のため、以下について取り組んだ。
 - ・研修室の換気の徹底。
 - ・手洗い及び手指消毒の徹底。
 - ・マスクの着用の徹底。ただし、3密を回避できる状況（屋外での活動等）または、身体的負荷を伴う活動の際は、熱中症予防の観点からマスクを外すことも可とする。
 - ・毎朝の検温の徹底。

(3) 広報のポイント

- 島根県立大学出雲キャンパスでは、同大学に在籍している法人ボランティアが当交流の家でのボランティア活動についての動画を作成し、オンライン授業時に当交流の家での活動についてPRを行った。

4 参加者へのアンケート結果

(1) アンケートの集計 (%)

	満足	やや満足	やや不満	不満
事業全体	100	0	0	0
プログラム	100	0	0	0
運営	100	0	0	0
講義・演習の内容	100	0	0	0
職員の対応	100	0	0	0

(2) 参加者の声

- 新型コロナウイルス感染症の関係で、入学してから今まで先輩と関わる機会がほとんどないままだったので、今回のように楽しく活動する中で関係をつくることができたこともよかった。
- 2日という短い時間だったが、内容、情報ともに密度の濃い時間を過ごすことができた。
- 様々な活動をし、その反省やふりかえりをする中で、コミュニケーションのことや人間関係のことについて学ぶことができた。今回体験したことや、得た知識・技術をこれからのボランティアや大学生活、そして社会人になったときに活かせるように、日々学びのアップデートをしていきたい。
- ボランティアセミナーに参加し、「ボランティアに参加する」ためだけの知識だけでなく、これから様々な活動や学校生活、働き出してからを送る上で有効な知識・技術を身につけることができた。活動を進めながらふりかえりをする中で、そこでしか得られない気づきやそこで得た今後にも活かせる気づきが多くあった。国立三瓶青少年交流の家の活動に対して、より参加したいという気持ちが大きくなった。

